

会 報 第 67 号	Mt. Iwaki Conservation Association 岩木山を考える	2015 年 8 月 28 日 発行 岩木山を考える会 会長代行 小堀英憲
-------------------	--	---

第 3 回岩木山講座「岩木山北麓の神社と石神信仰地を巡る」

好評だった昨年の「岩木山麓の遺跡巡り」を更に深める機会にしたいと思います。岩鬼山神社、十腰内山神堂下の石碑群、石上神社(上建石)、鬼神神社(刀鍛冶伝説の小屋敷・湯舟を車中見学)、鱒ヶ沢・海の駅「わんど」(昼食)、床舞八幡宮、森田歴史民俗資料館、久順志神社(森田)、妙堂崎のトドロッポ(トドマツ)を訪ねる予定です。案内は福士寿一先生が担当します。

日 時： 9 月 13 日(日)8 時～16 時

集合場所： コープ青森駐車場(8 時に出発できるよう集合ください。)

参加費： 500 円(マイクロバス代、資料代、保険料、入館料)

持ち物等： 歩きやすい履物、昼食(食堂あります)、雨具 ※雨天決行

募集人員： 先着 25 名

申込先： 藤原裕貴子(TEL0172-33-5360)

締切日： 9 月 7 日(日)(募集人員を超えた場合はその時点で)

第 4 回岩木山講座

「梵珠山中腹から岩木山を眺める～紅葉とキノコ汁～」

紅葉が始まる梵珠山中腹(岩木山展望所)から岩木山を眺め、ミズバショウの道へ下って日本一のブナ巨木(幹周 8.62m)を観察します。

下山後は秋の味覚、キノコ汁を味わう企画です。心地よい散策と味覚の観察会に、ご参加ください。

日 時： 10 月 18 日(日)

集合場所： 県民の森 梵珠山ふれあいセンター手前の駐車場

参加費： 500 円(保険料・材料費)

持ち物等： 雨具・防寒具・登山靴または長靴・昼食、必要に応じ飲料水

募集人員： 先着 25 名

責任者及び申込先： 竹谷清光(TEL0172-36-6686 17 時～21 時)

締切日： 10 月 13 日(火)21 時

第36回東北自然保護のつどいのご案内

テーマ:「原発事故に伴う放射能汚染と再生可能エネルギー開発を考える」

(呼び掛け文より)

2011年3月11日に発生した東日本大震災は東北地方太平洋沿岸部に甚大な被害を及ぼしました。1万9千人を超える尊い人命を奪い、穏やかな山漁村を一変させてしまいました。さらに、福島第一原子力発電所の爆発事故は広範囲な放射能汚染を招き、発電所周辺市町村の住民は長期に及ぶ避難を強いられています。また、放射能汚染は自然生態系へも深刻な影響を及ぼし、野生鳥獣の生息地域にも変異が起っています。他方、事故を契機とし、再生可能エネルギー開発は、東北各地の豊かな自然をむしろ積極的に開発が進められており、かつてのリゾート開発と同様の大規模開発計画も明らかになってきました。このような背景の中、第36回「東北自然保護のつどい」福島大会において、現状を共有し、大いに議論を深め、より良き方向に進んでいくことを目指したいと思っております。どうか多くの皆さまの参加をお願いいたします。

日時:2015年11月14～15日(土～日)

場所:福島県郡山市大槻町字西勝の木38-1「郡山温泉」 電話024-951-1231

主な日程: 14日 13時開会

・記念講演「放射線の生態系への影響」(仮題)

難波謙二氏(福島大環境放射能研究所所長)

・現地報告 ・各地からの報告 ・夕食懇親会

15日 ・各地からの報告 ・全体会議 ・大会アピール採択

昼閉会(午後:オプションで現地観察会、避難区域視察)

主催:東北自然保護団体連絡会「第36回東北自然保護のつどい」福島大会実行委員会

参加費:宿泊込10000円。 *参加希望の方は、事務局へ連絡ください。

第1回岩木山講座「小白沢(松代)の山野草観察会」報告

15.05.10(日)、今年度第1回岩木山講座が、岩木山北西部の小白沢流域で開催されました。

前日夜から朝方まで雷と雨で天気が心配されましたが、集合場所のミズバショウ沼公園駐車場に集う頃には小雨になり、参加者総勢20名は、車4台に分乗して観察地点に向かいます。小白沢に着く頃には曇り空ながらも、運よく雨は止んでくれました。雪が残る小白沢左岸に進み、まずは山野草観察から始まります。当日は気温が低く(7℃)、残念ながらキクザキイチゲやスマレサイシン、シラネアオイは花が開いていなかったものの、今回観察のメインの花、エゾノリュウキンカ(蝦夷立金花)が、残雪をバックに皆さんを出迎えてくれました。時々陽射しがあり、黄色の花が一面に広がります。フキの葉に似ることからヤチブキの別名を持つキンポウゲ科の

多年草で、青森県の絶滅危惧種に選ばれています。同じ湿地を好むミズバショウも咲き始め、純白の仏炎苞が目立ち、エンレイソウ、オトメエンゴサクなども観られました。約 400m 東に進み、今回一番の難所である沢渡渉点に差し掛かります。前日からの雨で流れが速く、ザイルを張り、手を取りながら1本の丸木橋を全員無事に通過しました。左岸に渡って、ここからは若葉が萌えるブナ林散策の始まりです。大きなヤマナメクジがブナの幹に登り、皆さんは早速カメラで撮っていました。可愛いオオカメノキの若葉もあちこちに見られます。東幹事の森の多様性や虫の説明に皆さんが聞き入っていました。ブナからカラマツ林を通過し、やがて車道に下って、そのまま白沢大橋まで道端のオニグルミ、トチ、ハウノキ、ミズナラなど、それぞれ個性のある若芽を観察しながら歩きます。その頃は天気も晴れてきて観察会は橋を渡りきった地点で解散の挨拶。駐車地点へ戻って各車はミズバショウ沼公園まで走り、随時解散としました。皆さんは山野草や緑の森の美しさに感動していました。



花田一雄 記

5月10日、第一回岩木山講座「松代の山野草観察会」に参加した。

前日の天気予報と違って、集合時間になっても雨が止まず、雨具を付けて松代に向かう。沢沿いの道なき道を進むと、雪解けの中に春の草花が姿を現す。雨は上がったが、気温が低いせいか、しぼんだ花が多い。そんな中、露のような葉の上に黄色い花をつけたエゾノリュウキンカが咲いている。初めて見るこの花は、食用にもなるそうだが、希少植物になっているとのこと。決して採らないで、撮るのは写真だけにしたい。

ブナ林の中は、土が軟らかく下草も少ないので歩きやすい。阿部先生や竹谷さんから、新緑の草木の名前や葉のつき方の違い、雄花と雌花の咲き方など教えてもらった。楽しくためになる観察会でした。

佐藤文猛 記

弥生跡地観察会報告

6月21日(日)10時より12時まで、弥生スキー場跡地を会場に、弘前市主催の「弥生いこいの広場隣接地利活用に係る自然観察会」が開催されました。子どもたち7名とその親5名の12名が参加、弘前市からは古川勝公園緑地課長以下5名の職員が参加、弥生跡地が出来た経過の説明と行動の諸注意がありました。講師は、阿部東、奈良岡弘治、松本明男、石戸谷芳子、高橋仁志、竹谷清光、齋藤真人各氏。陸奥新報社からの取材も加わり、総勢25名

程が早速、弥生跡地にあらかじめ草を刈り作っておいてもらった観察ルートに入りました。

一行は、かぶれる危険のある樹木の説明などを受けながら進みます。スキー場造成工事で埋められたものの、自然の力で復元した沢に入り、ニホンザリガニ探し。歓声を上げ乍ら次々に10数匹のザリガニを捕まえました。中には卵を抱えている個体もあり、じっくりと観察をした後、沢に放してやりました。

湿地帯ではトンボとりで大賑わい、伐採されずに残った林に入り、ひんやりとした温度差を体感しました。根元のあちこちに1センチほどの穴があき、木くずが根元に散らばっている樹木にクワガタを発見。大きなシロスジカミキリを見つけた子はおおはしゃぎ。帰りには、クリの葉を食べているケムシ(クスサン)を観察、クワの実を手のひらに一杯収穫し口を真っ赤にして食べる子もいました。最後に元スキー場で使ったロープ塔の動輪の中をくぐってミズキが大きく成長しているのを見て、自然のたくましさに驚きながら、観察会を終えました。

子どもたちからはクワガタを見つけたのがうれしかった、ザリガニをみつけて楽しかったなどの感想が聞かれています。子どもたちだけでなく、付き添った親たちもザリガニを見つけて歓声を上げるなど、久々に触れる自然を大いに楽しんだようです。

市が主催の観察会を12時で終了し、講師陣8名はいこいの広場ハウスの下に集合、コープあおもりの土岐さんが昼食の豚汁とおにぎりを準備してくださっていました。昼食で一休み後、



毎年継続している、植物調査、毎木調査の開始です。毎木調査には、齋藤、竹谷、阿部、奈良岡の各氏が、植物調査には、石戸谷、松本、竹浪と2班に分かれ跡地に入りました。毎木調査は1時間ほどで終了、植物調査は2時間半ほどかかり無事終了できました。

毎木調査の結果、対象木30本の1年間の平均成長が1.8cmだったことがわかりました。植物調査では今回198種の植物をチェックできました。

今回参加されたみなさま、本当に一日お疲れ様でした。

竹浪純 記

6/10岩木山環境保全協議会平成27年度総会で当会から意見を提出。回答をいただきました。

岩木山の環境を守るために、弘前市が音頭を取って協議会が開催されています。メンバーは弘前市、青森県自然保護課、津軽森林管理署、岩木山神社、(株)岩木スカイライン、日赤岩木山パトロール隊、岩木山観光協会、そして岩木山を考える会です。

今年は以下の諸点について意見を文書で提出し、意見交換をし、回答を得たのでお知らせ

せします。

1. 入山ポスト設置の件

入山ポストの設置については、去年の総会で当会から提案し検討され、その後9～10月にかけて当会と観光政策課の間で情報交換をしました。この経過の中で、当会にも情報提供を求められました。

それを受けた当会からの提案を以下の通り整理して紹介します。(詳細略)

御嶽山の噴火をはじめ日本の火山が活動期に入った様相を呈している現在、入山者の把握の重要性はますます高まっています。入山ポストの早急な設置を希望します。

⇒岩木山観光協会等の関係機関と協議します。(6/12 観光政策課)

2. 赤倉登山道26番観音付近の登山道崩落危険回避の件

昨年7/31に当会が登山道のすぐそばの急斜面が大崩落していることを確認し、県自然保護課と弘前市観光政策課に報告しました。県、市もすぐ調査に入っていただいた結果、危険と判断され、赤倉神社登山道入口付近に立て看板を設置し注意を喚起すると共に、現場にピンクリボンと、黄色の危険テープを張るなど、通行者に危険を喚起する措置をしました。しかし10月頃には立て看板に貼ってあった注意書きはなくなり、危険喚起の黄色テープもなくなりました。あるのはピンクのリボンだけです。これから大雨により地盤が緩み登山道まで崩落する可能性があります。危険喚起の看板設置とテープを張り巡らすことは必須だと考えます。

⇒予算も限られており、優先順位を考えながら、対応していきたいと思います。(6/12 観光政策課)(その後、危険を知らせる看板が、各登山口、避難小屋等に張り出されました。)

3. 焼止、鳳鳴小屋整備の件

去年整備を提案しましたが、昨年度の事業にはならなかったようです。避難小屋には県内だけでなく県外からの登山者が入ります。岩木山の印象を悪くすることになっているのではないのでしょうか。今年は実施するのでしょうか。

以下、去年の提案を再掲します。

①鳳鳴避難小屋については、入口の引き戸の動きが悪く、冬季間は開閉が不能となります。避難小屋の役目を果たさないので冬までには修復すべきです。また、ベッドも壊れているので改修すべきです。

②焼止避難小屋については、春まで軒が折れたままになっていましたが改修したのでしょうか。また、冬季使用の2階入口のアルミドアは、長年使用してきたためか、ヒンジ部分が緩くなってきており、氷が挟まるなどしてきちんと閉まらないことがしばしば見られました。ドアが開けばなしとなれば、小屋そのものが使用不能となる恐れもあるため、この際交換が必要ではないかと考えています。小屋内にある備え付けベンチの壊れ、ベッドの壊れも改修すべきです。

⇒観光政策課長:鳳鳴小屋、焼止小屋ともに今年度予算がついたので修繕を進めたい。百沢登山道に倒れている標柱の修復も行う予定。(6/12 観光政策課)

4. 百沢、弥生等、登山道整備の件

- (1) 去年は、弥生登山道について刈り払いを実施してもらえることになりました。ご配慮ありがとうございます。去年は、弥生登山道について刈り払いが実施されたわけですが、他の登山道も含め、定期的に刈り払いをすることが必要ではないかと考えますが、いかがでしょうか。また、長平登山道は弘前市の管轄ではありませんが、やはり同じ事が言えます。
- (2) 去年、流水で道路が掘られてしまっている登山道に対する効果的な対策の必要性について、議論がありました。是非、実現する方向で検討をお願いします。
⇒整備する箇所を整理したうえで、山岳遺産の助成金(採用されれば、次年度の予算として使えます。)も踏まえて、検討を進めていきます。(6/12 観光政策課)

5. 御嶽山噴火に伴う、危険予防措置について

- (1) 避難小屋に救急防災用具を設置したとの情報を得ましたが、どのような備品が設置されたのか、その利用の手続き等はどうなるのか、などを教えて下さい。当会では、出発地点に置いて利用してもらおうようにするべきではないかという意見が出されていました。
- (2) 危険な状態が発生したときに、どのような行動を取ればいいのかなどを分かりやすく説明をしたリーフレットなどがあれば、啓蒙に役立つと思いますがいかがでしょうか。作成してなければ作成してはいかがでしょうか。
- (3) 岩木山には噴火に備えた観測施設はあるのでしょうか。あるとすれば、そこで異常が観測された場合などの情報発信システムはどうなっているのでしょうか。教えて下さい。
⇒市防災安全課の所管であり、そこから情報をとらないと回答できないので、時間をいただきたいです。現状を把握したうえで、資料をお渡ししたいと思います。(6/12 観光政策課)
⇒防災安全課からの回答

A1. 平成27年4月28日(火)に岩木山避難小屋3箇所(山頂休憩所、焼止まりヒュッテ、鳳鳴ヒュッテ)へ火山灰対策用品として、ヘルメット6個・ゴーグル6個・防塵マスク6枚・救急箱及びタフキャリア(容器)を1セットとして、山頂避難小屋と焼止まりヒュッテに2セット、鳳鳴ヒュッテに1セット搬入しました。

救急箱には、傷・骨折・やけどの症状ごとに使用用品を区分したパックが入っております。使用の手続き等については必要ありません。万が一使用された際には速やかに避難小屋か防災安全課へ返却をお願いいたします。

登山はあくまで自己責任において行われるものでありますので、自己の生命を守るために万全の準備とルールを守ることをお願いいたします。

A2. リーフレットはありませんが、岩木山火山ハザードマップが青森県によって作成されており、随時希望者に配布しております。また、市のホームページにも岩木山火山ハザードマップの掲載と入山の際の注意事項や仙台管区气象台へのリンクを貼り付け、月単位での火山活動の情報やカメラ画像で岩木山の状況が確認できるように情報発信しております。

万が一、危険な状態が発生した際には、枯木平から弥生北口までほぼ半円形(主

要地方道岩木山環状線に添うように)で整備されている防災行政無線やスカイライン8合目ターミナルのスピーカーを用いて情報伝達を行います。

登山中にいつもと違う活発な噴気・地鳴りや地震、何らかの異変を認めた場合には、市または警察に連絡いただき、すみやかに下山するなどの避難をお願いいたします。

A3. 岩木山は噴火の前兆を捉えて噴火警報等を適確に発表するために、気象庁仙台管区気象台火山監視・情報センターでは地震計・傾斜計・空振計・GPS 観測装置・遠望カメラ等の火山観測施設を整備し、火山活動を24時間体制で常時観測・監視しています。噴火等の兆候が見受けられた場合には、青森地方気象台から県などに速やかに通報されます。市では県からの通報又は要請を受け、その内容によって災害対策本部等を設置し、ただちに防災行政無線や広報車等のほか、各部や各総合支所を通じ、住民や地域の町会長などへの連絡や避難所開設などの対応を行います。

6. スカイライン路肩崩壊現場修復について

現在、修復工事が始まっているようですが、進捗状況を教えてください。

⇒梅原寛(株)岩木スカイライン代表取締役:崩れている部分の上方に落下しかかっている石などがあるため、上の方も含めて危険対策の工事をしている。壁の修復は岩木山ヒルクライムレースまでにはめどをつける予定。(その後、修復が完了しました。)

7. 環境保全の啓発活動について

岩木山を訪れる方々に、保護地区でのマナーなど環境を保全する考え方を身につけてもらうためには、やはり子どもの頃からの啓発・教育が必要です。最近は、登山口から子どもたちが登山をすることも少なくなりました。登山活動を通じて、山を大切にする思想を身につけてもらいたいと思います。そのために、市の事業の一つとして、親子登山教室を開催し、親子のふれあいと共に登山のマナーと環境保全の大切さを伝える機会とすることを提案します。ガイドや講師が必要になるので、当会も協力を惜しみません。山岳会など岩木山に関わる他団体からも協力は得られるのではないのでしょうか。

⇒良い提案だと考えております。既に教育委員会に伝えてあります。貴会に協力を賜ることが出てきましたら、よろしくお願いいたします。(6/12 観光政策課)

⇒教育委員会の学務健康課からの情報だと、遠足等の行先は各学校に任せておりますが、岩木山は危険を伴う場合もあることもお伝えしなければいけない、とのことでした。(6/12 観光政策課)

8. 死亡事故について

去年の11/29に行方不明になった方が、5/14に岩木山頂上から東側に200m下がったあたりで遺体で発見されたとの報道がありました。今後の遭難対策上、事故の詳細について差し支えない範囲でお知らせ下さい。

⇒略

以 上

ゴマシジミ発生地(ミズバショウ沼)の刈り払い

7月7日(参加者:竹谷、花田、齋藤、竹浪、阿部)

8月16日確認調査(阿部)

竹谷さんの草刈機のエンジンがうなり、やがて竹浪さんのそれも加わった。他の3人は鎌で手刈りをした。今年は弘前市公園緑地課の古川課長さんと山本係長さんのご指導により、青森県スポーツ振興課の許可を得、伸びだした灌木も伐採してみることにした。背丈以上に伸びた灌木を2か所根元から伐った。イヌエンジュ、ミズナラ、ヌルデ、ノバラなどである。8月15日に確認調査をし、その結果を記録する。

ススキ刈りをしていない所は、背丈に近いススキがびっしり生えている(写真1、星印)。ススキ刈りをして2年以上経た所(写真2、右下の星印)と刈られなかったところ(写真2の左上)。

8月16日にはゴマシジミが羽化し始めていて5♂を目撃した(写真3)が羽化直後、羽根がまだ軟らかく飛べなかった。

ヌルデを伐った跡とミズナラを伐った跡は、草が成長して切り株も見えない(写真4星印)。

これまで何年か続けて刈った所では、ゴマシジミの幼虫が食べる餌のナガホシロワレモコウがすでに花穂(矢印)をつけていた。ゴマシジミはこの花穂に産卵する。

今年もゴマシジミは絶滅することなく発生していて安心した。



写1 ススキを刈っていない所 星印



写2 ススキを刈った所 星印
上の刈っていない所と比較



写3 羽化したばかりの
ゴマシジミ(まだ飛べない)



写4 灌木を伐った所 星印



写5 花穂をつけた
ナガホシロワレモコウ
(長穂白)

阿部 東 記

長平湿原の調査報告

日時 7月12日(日) 8:40～14:40

参加者 11名(当会幹事4名、ウォッチング青森他より7名)

コース・日程 石神神社近くまで車で。長平コース登山道の湿原近くの「ほこら」から「上の沼」へ降りて調査を約1時間20分行う。

・今回は植物の領域を深めているウォッチング青森他の参加者が7名ありました。登山道沿いの対象も適時ループで観察・記録。必要な対象は資料として採取・調査へ。観察の姿勢を学ぶ機会となりました。

・湿原で観察できた花は、モウセンゴケ、トキソウ、ネバリノギラン、サギスゲ、クロバナロウゲ、コバノギボウシなど。

・登山道沿いでは、マイヅルソウ(スキー場では「実」、高地では「花」)、ユキザサ、タニギキョウ、エゾノチャルメラソウ、ヤグルマソウ、オオヤマオダマキ、ヨツバヒヨドリ、ズダヤクシュ、クモマニガナ、ハリブキなど。

・「上の沼」のへりに小熊らしい足跡があった。その側は2か所、植物の盗掘の跡が見られた。

藤原裕貴子 記



残念！岩木山唯一のアオモリトドマツが枯死

岩木山に唯一残され、岩木山スカイライン8合目に残存していたアオモリトドマツが枯死していることが判明しました。6月上旬から当会会員複数名より、枯死しているのではないかとの情報が入り、7月9日に当会阿部東幹事をはじめ5名で調査に行きました。その結果、写真のように枯死しているとの判断に至りました。

岩木山のアオモリトドマツについては、日本海側の高峰に生育している例としては希有なものであるために、当会としても、関係行政機関に保護対策をお願いしてきた経緯があります。特に生育場所が春の除雪に際しての雪捨て場にあたるところから、配慮をお願いしてきました。それにもかかわらず、枯死に至ったことは甚だ残念ですが、これも自然の推移の結果であろう、やむを得ないと、幹事一同話し合っています。この件に関して陸奥新報が7月10日付で記事にしてくれました。



竹浪 純 記

会員の皆さんへお願い

 岩木山に関する情報やこういう事を会員皆と共有したいと言った希望がありましたら、事務局までご一報下さい。会報は会員の皆さんの交流の場です。また、寄稿なども大歓迎です。

※編集後記

夏も終盤、急に気温も低下し秋の空気が漂ってきました。今年は我が家のりんごだけでなく全国的に大玉で大豊作となりそうです。りんごの価格が下がって豊作貧乏になるかどうか気になるところです。他方、アベノミクスの円安誘導によってりんごの販売環境はこここのところかなり良くなっています。円安は輸出には有利になり、逆に競合する外国産のりんごやその他果実の値上がりによって国産のりんごの販売は有利になります。この水準であればもし TPP で輸入果実の関税がゼロになってもなんとかなるかもしれません。とまあ、りんご農家にとってアベノミクスは悪くないのかもしれませんがその分のツケは消費者が払わされています。物価上昇に所得の上昇が追い付いていません。額面上の収入が増えたと喜んではいけません。アベノミクスのように小手先の操作で見かけの好景気を装ってもいずれ嘘はばれます。それに中国の景気減速は日本の景気も直撃しています。株式市場に流れ込んだ年金の損失はいったいいくらになったでしょうか？

実体のない数字に一喜一憂する社会。自然に囲まれて生活しているとそれらの実体のない世界がよりくっきり見える気がします。何が起こっても僕らは自然に生かされている事実には変わりはないのです。本物の価値は自然が教えてくれます。それを見極めればどんなに景気が悪くなっても何も怖いものなどないと思っています。今日この頃です。

小倉慎吾 記

会報「岩木山を考える」第 67 号(2015 年 8 月 28 日)発行／岩木山を考える会

副会長(会長代行) 小堀英憲

〒036-8131 青森県弘前市千年 4-12-15／電話 0172-87-1910

事務局長 竹浪 純／電話 070-6952-2614

郵便振込口座番号 02380-0-37914 振込先:岩木山を考える会